



バラ十字会日本本部 AMORC
非営利・非宗教の世界的教育組織

〒 173-0005 東京都板橋区仲宿 53-2-101
TEL 03-5944-1325 FAX 03-5944-1326
<http://www.amorc.or.jp>

2012年3月20日
バラ十字暦 3365年

『自然界は、私たちが〈創造主／神〉と呼び、永遠にして不滅の存在だと考えている、かの偉大なる存在の体であると言っている。したがって、自然界とは、至高の存在の思考が具体化されたものである。』

フランソワ・ジョリヴェ＝カステロ (1874-1937)

著作家、錬金術師

皆さまの魂の奥底に、バラ十字会は環境保護を訴えます

ROSICRUCIAN PLEA FOR SPIRITUAL ECOLOGY

私たちの誰もが気づいている通り、私たちの星は、今危険な状態に置かれています。ありとあらゆる汚染をこうむり、生態系は脅かされつつあります。多くの動植物が、すでに絶滅したか、あるいはその危機に瀕しています。また、気候の温暖化が進行し、このままでは海水面の上昇を招く恐れがあります。こうした事例は、まだまだあります。このような状況が生じたのが主に人類のせいであることは、今や否定しようのない事実です。世界規模で即効性のある行動を採らなければ、地球を蝕んでいる様々な問題が、規模を拡大しながら、これまで以上に頻発するでしょう。そして、それに応じて、人類自体がさらに危険にさらされることになります。自然界には、鉱物界、植物界、動物界、人間界という4つの領域が存在します。その中で、もっとも脆くて弱いのが、私たちの人間界です。なぜかと言えば、人間界は、他の3つの領域の支えがあってこそ生き続けられるからです。ですから、この3つの領域を損ねるような真似をすれば、人間は、自らの不幸を招くばかりか、人類の一部が、あるいはすべてが姿を消すという、最悪のシナリオさえ現実となる可能性があります。

地球という星は、私たち人間の命を支えるための環境という役割だけを果たしているのではありません。地球は、私たちが精神的な進歩を遂げる舞台でもあります。というのもこの星は、人類が自らの神聖な源に気づき、内的世界の充足感を味わえるようにと、人間の手になんとも委ねられた土地だからです。ですから地球は、そこに生まれるすべての魂に共有されている神聖な土地であると言えます。この見方からすると、地球と人類は、「神聖な計画」の一環であり、物質の世界も、個々の人生のはかなさも超越した存在です。すべての人々がこのことに気づくならば、私たちを取り囲むこの環境に対して、今以上に敬意を払うだけでなく、お互い同志の友好をさらに大切にしようと思うことでしょう。また、精神の深奥の探究に導かれたり、人生の深遠な意味について自問する傾向が深まることでしょう。そして、「創造主・自然界・人間」という三位一体、言い換えれば「天地人」という相互依存関係が、本来の意味と価値を発揮することになります。

バラ十字哲学の観点から言うと、自然界は、最も美しい神殿や寺院にたとえることができます。人類の進歩の道のりの様々な時点で、人の手によって様々な神殿や寺院が建てられてきましたが、それらは、神々を、あるいは唯一神を信仰し崇拝する目的のためでした。一方、私たちの星はといえば、そこは神聖なる法則、つまり自然界と宇宙と精神の法則が実際に表現されている場所です。こうした法則は、先ほど述べた自然界の4つの領域のすべてで、聡明かつ思慮深く作用しています。このことは、私たちの一人ひとりが理解しておくべき事柄です。実際のところ、感性と知性が十分に研ぎ澄まされた人なら誰もが、美的感覚から見ても、哲学的観点から見ても、自然界こそが、まさにあらゆるものの中で最も美しいものであるということを感じます。そのようなものとして自然界は、考えられるすべての芸術作品の性質を合わせ持ち、人間の意識に潜在する最も高貴な感情を引き出します。このように考えると、無神論者でさえ自然を「神のようにあがめる」理由が分かります。

21世紀の始まりであり、3度目の千年紀の幕開けにあたり、また、私たちの星と、ひいては人類の生存が重大な危機にさらされているこの時点において、この文章によって、みなさまの心の深奥に環境保護を訴えるのが有意義なことであると私たちは考えます。

- 忘れずにいましょう。私たちが生きている地球という星は、40億年以上もの昔から存在している一方、私たちが知っているような人類がこの地球に出現したのは、たかだか300万年ほど前にしか過ぎないことを。そして、その人類が、この100年足らずのうちに地球を危機に陥れてしまったことを。
- 忘れずにいましょう。地球の3分の2を覆っているのが水であることを。そして、私たち自身の体の75%が水でできていて、水なしには生きていけないということ。
- 忘れずにいましょう。森は、私たちが吸い込む酸素を作り出す、いわば地球の肺なのだということ。森がなければ大気は存在せず、したがって生命も存在しないということ。
- 忘れずにいましょう。人類が出現する数百万年も以前から、地上には動物たちが暮らしていたのであり、私たち人類の生存は、動物たちに支えられているのだということ。また、動物たちが、知性を持った、感受性豊かな生き物であるということ。
- 忘れずにいましょう。自然界の4つの領域は相互に依存していて、それぞれの領域の間には、すきまも明確な境界もないということ。また、そのそれぞれの領域は、異なったレベル、異なった形の意識を有しているということ。
- 忘れずにいましょう。地球は、自体が発生する電磁場に包まれていて、この電磁場が大気と連動して、生命に大きな役割を果たしているということ。
- 忘れずにいましょう。私たちの星が存在することは、偶然の産物、すなわち時間と空間が引き起こした単なる偶発的な出来事などではなく、私たちが〈創造主／神〉と呼んでいる、かの〈宇宙の知性〉が考え出して、そして実行に移した〈計画〉の一環なのだということ。
- 忘れずにいましょう。地球とは、単に人間が存在することを受け入れてくれる星であるばかりでなく、様々な魂が人の体の中に生まれ変わり精神的な進化を遂げた後に、素晴らしい帰結を迎えるための環境でもあるということ。
- 忘れずにいましょう。私たちの星こそ、創造されたものの中でも最高傑作のひとつであることを。地球に似た星は、宇宙にただひとつだけあるのではないにせよ、たぐい稀な天体であり、人類がこの地に暮らせるということは、極めて大きな特権であるということ。
- 忘れずにいましょう。地球は私たちの所有物などではなく、私たちが一生を送る間だけ私たちの裁量に任されているに過ぎないのだということ。そして、地球こそ、未来の世代に受け渡すことのできるものの中でも、最も貴重な財産であるということ。
- 忘れずにいましょう。私たちは、地球に対していかなる権利も持っておらず、持っているのは、地球に敬意を払い、保護保全に努める義務だけであるということ——たったひとことで言うとすれば、地球を愛しましょう。

次の言葉を忘れずにいましょう。子供たちと一緒に覚えて、私たちみんなの標語にしましょう。

"Terra humanitasque una sunt".

(テラ・ウマニタスケ・ウナ・スント：ラテン語)

「地球と人は一心同体」

クリスチャン・ベルナル
バラ十字会 AMORC 世界総本部代表

Christian Bernard 
Christian Bernard Imperator

この文章は、2012年4月にブラジルの国会の上院で行われたバラ十字会 AMORC 世界総本部代表、クリスチャン・ベルナルの講演からの抜粋です。

バラ十字会 AMORC は、宗教や政治のいかなる組織からも独立した、歴史ある会員制の哲学団体です。当会は思想の自由を尊重しつつ、神秘哲学、人生哲学、心の深奥の探究にご興味をお持ちの方々に、長い年月を経て検証され伝えられてきた知識を、講演、通信講座、雑誌などの形で提供しています。男性にも女性にも、いかなる人種、宗教、社会的地位の方にも開かれ、「最大の寛容と、厳格な独立」をモットーに世界中で活動している当会は、多くの国々から、非営利公益団体として認められています。